



ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市中野28 中野隣保館内 TEL/FAX 079-594-3979 振替口座 00930-6-29629



渡辺省悟氏追悼特集

ネパールでの現地責任者巴拉ト・ピスタ氏夫妻とその孫を抱いて。ピスタ氏はPHD第一期研修生として渡辺氏宅で四か月ホームステイして、農業研修（養鶏・有機農法）を受けた。ピスタ氏が手にするのは、世話になった「につぼんのお母さん」渡辺まさみさんの遺影。

里を愛し 農を愛し
人と 自然を愛し
妻と 家族を愛して
人生を駆け抜けた君

「すべて良きことかな」と
至言の記録を遺して
愛妻の待つ天上へ
足早に旅立っていった君

願わくば
遠く西方浄土の空に
永遠の光芒を放つ
暁の明星となって
ネパールの村の行く手に
希望の光を与えられんことを

●信念の人—渡辺省悟氏を偲ぶ—●



PHD運動提唱者 岩村 昇

篠山ナマステ会 代表 杉原 一三

渡辺省悟氏は、まことに“人類愛”の実践家でありました。ご近所に何かと問題を抱えておられる人を見かけられると、ご自分の忙がしさは後回しにしてその困っておられる方の問題解決のために走り回っておられました。

また世の中の権威と金の結び付いた暴力に対しては敢然と立ち向かい、堂々と闘っておられました。又、日本国内外の被抑圧者、弱者の救済についてもひそかに東奔西走しておられました。しかし、渡辺氏は決して聖人君子ではなく、むしろ大変率直な謙虚なお人柄でした。ある時ぼそと、こうつぶやかれました。「先生、最近身体も心も疲れ果てて、何をしてもいやになってしまいました。何かこの大馬鹿野郎につける特効薬はないでしょうか？」その夜、自らを「大馬鹿野郎」と呼ぶ心砕かれた渡辺氏と小生は、彼の持山の頂上に登りました。折しも秋の夜更けは澄み切って満点天に輝やく星々は手に取るかのように、真近に見え、我々二人と天との間を遮る物は皆無の世界で、神様のお声が直接聞こえるようでした。「神様、私は疲れ果てました。どうぞ、お力をお与え下さいませ」この渡辺氏の血を吐くようなお祈りに触発されて小生の心身も充たされ聖らかな力が与えられたのを覚え、そして、『生きるとは分かち合う事、弱き者と』という新しいお言葉を与えられたのであります。



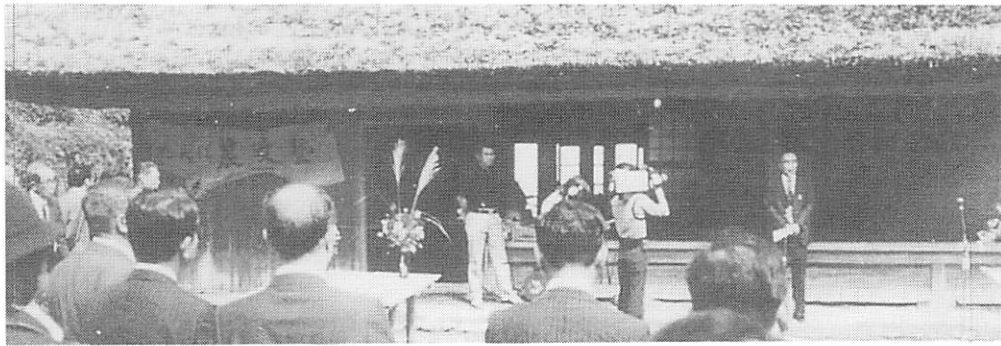
渡辺省悟さんとの出会いは、今から13年前の1990年渡辺さんが丹南町議会に出られる1年前で、その当時ふるさと創生が叫ばれていた頃であり、丹南クラインガルテン研究会を立ち上げた時の代表幹事が渡辺省悟さんでした。私も幹事の一人として関係しており、同じ年の8月中旬から15日間にわたり西ドイツ、オランダ、イギリスの農業と市民農園視察研修に参加しました。その翌年に渡辺さんが町会議員になられた関係もあり、丹南クラインガルテンの代表幹事が私に廻ってきました。そして昨年4月には「篠山ナマステ会」の代表幹事を交代したばかりでもあり、二度にわたって渡辺省悟さんからバトンタッチを受けて、偶然とは言え運命的なものを感じています。

その渡辺省悟さんが突然逝去されました。私はまだ信じられない思いです。多くの皆さんも同じ気持ちだと思います。20年にわたり、農を文化として位置付け「共に学び、分かち合い、支え合う」PHDの理念を原点とし、常に「目は世界に、足は地域に」をモットーとして、人権、環境、教育等についても、一人の人間としていつも広い視野からの見識をもって、何事にも信念と的確な判断により事を実践に移してゆかれる意志の強さと実行力に、深い感銘を受けていました。更に、私たちにそれぞれ各自の生き方探しの指針を示して頂いたように思います。

渡辺省吾さんが蒔かれたネパールをはじめとした、従来の国際交流とは一味違う「お互いが顔の見える」国際交流の「種」から、その芽が出たところです。この芽を大切に、美しい花が咲き、立派な実がなるように見守り育ててゆくことが、後に残された私たちの使命であり、渡辺省吾さんのご遺志に報いる道であろうと思います。この厳しい試練を乗り越えて、篠山ナマステ会の新たな発展をめざし、更なる目的に向かって進みたいと思います。

皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い致します。

農文塾二十周年の集い



新家 茂夫

親愛し期待を寄せていた渡辺省悟さんの急逝は、全く青天霹靂の出来事でした。なんで、どうして、こんな事がと驚き、悲しみ、惜しむ多くの人々が長蛇の列をなし集うた葬送の情景は、渡辺さんが生前、貴い人間愛、郷土愛を基に町・市政に、地域農業振興に、国際協力活動にと高い理念と、献身的な実践活動に取り組まれた「仁徳の心」と実績を物語るものであり、万感の思いを込めて参列者共々、敬弔の誠を捧げた次第でした。

渡辺さんとはPHD運動や、たんば農文塾の草創期から関わり、20年余親交を続けてきましたが、若い彼の人世の上には幾多の艱難、困苦、波乱に遇うことがありました。然し持ち前の強固な意志と、不撓不屈の精神で「渡辺人生観」を貫き通して、強く生き抜いてこられた非凡な足跡があります。特にナマステ会設立と、ネパールとの交流からセティディビ小学校建設完成へと「分かち合い、支え合い、学び合う」基本理念の下、その先頭に立ち、大きな成果を挙げられたことは讃仰される遺徳であります。「崇高な志は、人をしてこれを継がしむ」の格言通り、ナマステ会が遺徳を慕いこれを継承して、力強く確かな歩みをつづけられることを信じ念願しています。

渡辺さんの御霊がふるさとの泉下に安らかに眠られ、ご遺族を守り給い。併せて郷土の繁栄にご加護を賜らんことを念じ、追悼文といたします。

渡辺省悟さんに学ぶ 小島 英毅

渡辺さんには私が丹南中学校に赴任して以来随分と御世話になったが、特に親しくお付き合いさせて頂いたのは平成10年の夏、ネパールへの旅を共にしてからであった。

その後の学校建設にかかるナマステ会の活動記録を紐解いてみたが、改めて渡辺さんの生きる姿勢とそのエネルギーのすさまじさに圧倒される思いであった。「生きるとは分かち合うこと」言うは易く行いは難しいこの理念を、真摯に全力で生き抜かれた渡辺さんに洵に多くのことを学ばせていただいた。

ありがとう渡辺省悟さん

篠山市長 瀬戸 亀男

渡辺省悟さんのあまりにも突然の訃報は、青年団活動や農業青年として共に汗を流し、激論を交わし合った旧知の仲であっただけに、大変なショックであった。

渡辺さんは、青年時代に培われたバイタリティあふれる行動力をもって、何事にも一生懸命のひとであった。

わが郷土篠山市発展のため、議員活動はもちろんのこと、PHD運動を通して、「たんば農文塾」の活動にかかわりながら、東南アジア地域の農業青年の育成や子どもたちの教育支援など、渡辺さんの活動に取り組む姿勢は、頭の下がる思いがする。

家族を愛し、地域を愛し、まちを愛し、海外の人々を愛し、がむしゃらに生きてきた渡辺さん。貴方が残した足跡は、確かな形で受け継がれ、大きな輪となって、地域社会に息づいて行くことを願って止みません。渡辺省悟さんありがとう。

農文塾創設当時の仲間と



人生の糧 原 重男

振り返れば4半世紀25年のお付き合いでした。仕事、生き方など、すべてにおいて私の座標軸だったと思います。全ての面において非常に厳しい人でした。自分にはもちろん家族や地域の中で、何事にも妥協を許さない強い精神力と、損得勘定抜ききの行動力に、本当に頭の下がる思いでした。

ナマステ会の設立、ガハテ村小学校の建設等、いま思い返せば、残り少ない時間を必死に生きられたように思います。この生き方を風化させることなく大切に受け継いでいきたい。

(財)PHD協会総主事代行 藤野 達也

省悟さんが逝ってしまわれた。これをどう受け止めたらいいのだろう。PHDが始まったのが81年。ネパールから帰ってきた岩村ドクターの話聞いた篠山の皆さんが、PHDの受け皿となって下さった。

「たんば農文塾」という組織ができ、後川に研修施設が用意された。82年7月、初の研修生がネパールとフィリピンからやってきた。その研修指導、滞在の多くが篠山・丹南で行われた。以後、毎年やってくる研修生の研修指導、滞在や、農文塾を拠点としたプログラムが続いてきた。そして篠山ナマステ会の立ち上げ。この一連の動きの中で常に中心にいて尽力してこられたのが省悟さんである。

私は82年4月に職員となって以来、何度となくお目にかかり、お話しし、一緒にいろいろさせていただいていた。ネパールにもお伴した。

天国から言っておられるかもしれない「ここまで道をつけといたから、あとはみんなで頼みますよ」と。だから、続けていかなければ。



訃報におののき 山岸 永子

「えっ！もう一度言って下さい、本当ですか！あまりにもあまりにも速く逝ってしまった貴方へ…言葉を失っています。今後私たちは、貴方が篠山ナマステ会へ注がれた熱い想いを大切に受け継ぎ育てて参ります。国境を越えて言葉や文化の異なる人達が、共に学び、共に生きる時代への架け橋を、篠山ナマステ会に託して逝った渡辺さんの心を、大切に受け継ぎ育てて参ります。どうか御霊安らかにお休み下さい。

さようなら渡辺省悟さん、さようなら。

「新しい地で…」 高井三千代

熱っぽくネパールを、農業を、市政を語る渡辺さんはステキでした。早々と奥様の元へ旅立たれ、再開を果たされたこと、少し羨ましく思います。天界では新しく仲間入りされた渡辺さんに、手帳を広げた私の夫が「こちらではどんな活動をなさるおつもりですか？」と取材をさせていただいたことでしょうか。新しい地でもまた、ご夫婦力を合わせてご活躍なさると期待しています。(合掌)



シュリー 渡辺省悟氏の愛しき思い出

バラト・ビスタ

私たちは、日本の篠山ナマステ会の創設者であり代表であったシュリー・渡辺省悟氏の突然の逝去に接し、深い悲しみにくれております。渡辺氏は私たちに対しいつも親切であり、感謝の心でもって接して頂きました。彼のネパールに対する大いなる努力と貢献、とりわけガハテ村振興へのそれは永久に記憶され、注目されるものであります。私たちは永遠にあなたを失ってしまいましたが、あなたはいつも私たちの真ん中に在り続けます。

願わくば、神が旅立っていった魂の永久の平安をお聞き届けになりますように、そして彼の家族、ナマステ会の家族の方々、更には篠山市や丹南の全ての人々に対しこの喪失に耐えるべき不屈の精神を与え賜わらんことを。バラト・ビスタ、サム・セワ・サムハの家族並びに全てのガハテ村民より心からの追悼を捧げます。

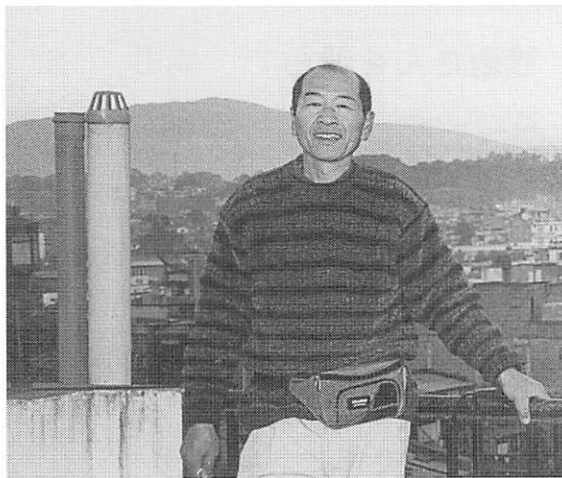
風の挽歌 上田和夫
野辺渡る風の挽歌や もがり笛
君が夢抱きてしずかに 山眠る
散つてなお我が胸に咲く 寒椿
君いますごとく枯れ野に遊ぶ 鶏
ネパールの寒夜を照らせ 夫婦星



先輩に学ぶ 岡沢 秀晃

渡辺先輩には、農高時代から親しくお付き合いいただき、多くのことを教わってきた。「ふたり史」を発刊されたときも、君もぜひ読んでほしいとお送り下さった。先輩の人間愛に満ちた真摯な生きざまと人生観が伝わり、感動する素晴らしい図書である。

思い出の一つに「たんば農文塾」の立ち上げがある。屋根葺きの材料集めに「萱刈り十字軍」を提唱、草の根運動の大切さを訴え、実行された渡辺先輩の勇姿がなつかしい。



温顔・愛語をありがとう 藤木 千皓

「限りなき生命の道を導かん、重ね給えよ萬世までも」周りの一人ひとりを大切に真心を尽くされ、一柱の神として生き通しの道を選ばれた渡辺様、大変な行事の時でもご苦労様、有難うの笑顔に接すると、心が快々奮起し、ふれあう度毎に暖かいものを一杯頂きありがとうございました。

我を捨てて一生懸命に、国内外に蒔かれた幸せの種が立派に開花するよう、みんなで協力して育てて参りますので、おしどり夫婦でお見送り下さいますようよろしくお願い致します。

故 渡辺省悟さん、ナマステ

近成 俊昭

ナマステ会の活動費を作るための、バザーをする前日、渡辺氏宅で焼き鳥の準備をしました。渡辺さんは、自宅の鶏舎で飼っている鶏を提供され、羽むしりからさばいて剥き身するまで鮮やかな包丁さばきをされました。

集会等でネパール支援を訴える言葉だけでなく、その背景には着実な地についての活動があることを再認識させられました。永年にわたるネパール支援と交流活動、本当にご苦労様でした。

下吉富久子

追悼文を書くということは、二度と渡辺さんにお出あいできないという確認みたいで、余計につらくなります。渡辺さんは生前私に沢山のプレゼントと大きな宿題を残して下さいました。プレゼントの一つは、ご一緒に見た神々の山ヒマラヤから昇る初日の出です。目の前に迫るピンク色のアンナプルナ連峰に、自然の偉大さを教わりました。

そして人間の運命に潔く従う己の力の強さ、私のこれからの人生の課題です。そばにいてももっともって教えてほしかった。悲しくてしかたありません。

木蓮の花のように 向井 祥隆

篠山とネパールの架け橋、草の根交流の熱源がいきなり姿を消した。国際交流は無論、農業や地域のことも人一倍熱い想いを持ち、笑顔で語る言葉にも真摯な重みを感じさせる人だった。たんば農文塾を創った時から縁あつてのナマステ会も、あの仏のような笑顔で誘われた。そして指名されるままに事務局になっていた。地道な活動家だが、人を引き付ける不思議な魅力を持った人だった。

まだ組織課題も多いのに、本当に急な別れだった。まるで木蓮の花が散ったように。

人・愛・自然に生きた渡辺さん

岩下 富子

篠山産業高校50年誌の、省悟・まさみさんの記事を読みながら涙にぬれています。私が教師としてお二人に出会ってから46年、たとえようもない貴重な歳月でした。あなたが示された土を愛するど根性、そして人と自然を愛する優しさで一貫した生きざまに、どれほど教えられたことでしょう。すばらしい多くの種も蒔かれました。その樹木をみんなでもっと大きく育てていきたいと決意を新たにしています。



「感謝」

藤本三千代

「渡辺さんの方へ足を向けて寝られない」と、娘がよく申します。4年前ネパールスタディツアーに参加した時、村へ行くのに橋のない川を裸足で渡らなければ行けないところ、前夜来の雨で増水した泥水に、足の指にケガをしていて立ちすくんでいた娘を、黴菌が入ってはいけなないと、おんぶして渡って下さったのです。当時の娘は少しふっくらとしていたので、重くて大変だったと思います。渡り終えて皆さんの拍手喝采。その時の写真やビデオを見るたびに、やさしかった渡辺さんを偲んでいます。



スタディーツアー 西垣 大介

渡辺さんとの思い出は、やはりスタディーツアーです。私は寝込んでしまうこともありましたが、渡辺さんは体調を崩すことなく常に前向きに行動されていて、特に山の村に行かれた時、川を渡れない人を負ぶって渡られたことを聞き、タフな方だと感心したことを思い出します。この度は本当に残念なことでしたが、渡辺さんの思い出をしっかりと胸に刻み込んで活動していきたいと思います。

一途な人でした 大前 衛

何回かナマステ会に出席させていただきましたが、やや早口で懸命にネパールを語り、そこに学校を建てようと仲間を率いてガハテ村に入村されました。私も一度は同行しましたが、渡辺さんの姿勢は一貫して“援助する者とされる者に上下関係があってはならない”でした。

議会活動でも、あきらめることはあっても、妥協のできない人ではなかったかと思います。私が慕わしく思い出す渡辺さんは、やっぱり一途な人でした。

渡辺省悟さんを偲んで 山本 純子

私と渡辺さんとの出会いのきっかけは、たんば農文塾でした。あれから20年、農業というものに全く縁がなかった私ですが、氏との農と土と自然や、人の心に対する情熱に感動し、いつしか活動の中に入り込んでいました。この活動を通して多くの方々と出会い、多くのことを学んで、かけがえのないすばらしい財産をいただきました。でも、まだまだ学ばねばならぬことの多かったことを今になって痛切に感じています。

渡辺さんを偲んで 森田 忠

農文塾の寄合いが大山の神田神社で開催された時に渡辺氏との最初の出会い。数名の男たちが真剣に明日の日本の農業や、地域づくりについて熱く語り合っている姿には感動しました。—今の日本に失われている「心」を取り戻したい— そんな思いが込められていたように思い出されます。

昭和57年にネパールへ発見の旅に参加後、渡辺氏の言われていた「心の豊かさ、自然との共生」を思い出しながら、自らできる息の長い活動を続けたい。

渡辺さんありがとう 喜多川直子

去年の夏、竣工式ツアーにご一緒させていただき、今思えば、最後だと思いつつ旅されていたように感じます。ガハテ村の式でショールを羽織られた時の表情がまさに感無量といった晴れやかなものであったのを思い出します。20年以上にわたる、ピスタさん、ネパールとの深いつながりを受け継いでいきたいと思います。たった2年余りの短いかかわりでしたが、渡辺さんからは多くのことを教えていただき、ありがとうございました。

見守って下さい渡辺さん

田辺美起枝

渡辺さんが天国へ旅立たれてはや2ヶ月半が過ぎてしまいました。いつも前向きで精一杯努力をされている姿を私達に示して下さいました。渡辺さんを失ってその存在の重さを痛感しています。これからのナマステ会を想う時。残された私達一人ひとりの力は小さくてもみんなで力を合わせて渡辺さんが常に言われていた「お互いに学び合う関係」を大切に活動しなければと決意を新たにしています。

出会いと別れ 武部 宣男

私は2000年のネパールツアーで渡辺さんと出会い、どんな事でもやり遂げられる立派な方とお会いできて、これからいろんな事を教えて頂こう、私の尊敬する人はこの人と心に決めて、ナマステ会を通じてお付き合いをさせて頂いたところ、急に帰らぬ人となられ、残念でなりません。

このような方を篠山から失った事は、ナマステ会、ネパールの方々、市民の皆様にとっても限りない寂しさであり、偉大な方との別れを惜しみます。

夫婦春秋

一三、八五七日

農を愛し、自然と人間を愛して、求道者のごとくひたむきに生き抜いた渡辺氏のそばには、常に彼を支え励まし続けた愛妻のまきみさんの姿があった。その愛妻を失ってから、夫婦の記録「ふたり史 すべて良きことかな」の序章の中で、彼は次のように述べている。

燃え尽くした六十歳の人生

妻が亡くなる前年の夏、子供達は還暦のお祝いをしてくれた。篠山市の還暦の仲間も、第二の人生をどのように生きるかを考える一つのきっかけとして、「篠山市還暦のつどい」を開催し、その企画にも中心的に関わってきた。それは、各々の六十年の人生を総括し、七十、八十代にどういう人生設計を組むかの節目にすることにあった。私達ふたりも、又、波乱の多かった人生を振り返り、新たなスタートを切る節目であった。が、わが妻は、第二の人生は不必要とばかりに、八十年の人生を六十年に凝縮して生き、私一人を残して逝ってしまった。妻を亡くした今「ベターハーフ」

「伴侶」の意味を改めてかみしめている。死という絶対のものは、残された者に絶対な意味を投げかける。残された者それぞれが彼女の生きざまから何を学ぶのか、私も又「お父さんよく頑張ったなあ」と言われるよう生きねばならない。三十八年連れ添った「ふたり史」は妻の死をもって終止符を打ったが、これからは、天国の妻とともに「天と地を結ぶふたり史」を築かねばならないと思っている。

アジアの母

「論より実行」を自らに言い聞かせてきた家内だったが「アジアの母」としての存在は記録にとどめておきたい。昭和四十六年にNHK全国優秀農家に選定されて以来、私の家に寝泊まりして農業（養鶏）を学ぶ青年達は四十五人程度になっていったが、研修生受け入れをする頃は、その上に二十五人のPHD研修生などと生活を共にした。その国十ヶ国、ネパール（ビスタ、ビショ、ビドル）スリランカ（ジャヤンタ、アビクーン、アジャヤンタ、シャーンタ）ビルマ（ウイン、トウンタウン）カンボジア（ソコム、ヴァナ）タイ（ワラヤ、サニー、パリワー、クルー、クルポー）パプア・ニューギニア（トニー）ソロモン諸島（ルーク）韓国（崔、崔曹、金、利、姜）オーストラリア（LCYE生、ジョン）であるが、ホームステイこそしなかったが、終生の姉妹関係を保ち、終末看護を続けてくれたショーパーナ（ネパール）はじめトンティン、ムームー（ビルマ）サヒ、ガウンチャン（ネパール）などが家を訪れ、家内とお茶を共にした人々は数多く存在する。彼女は英語ができたわけではない。世界やアジアの情報に通じていたわけでもない。にもかかわらず研修生達はよくなつてくれた。安心できる「肝っ玉母さん」でもあった。

天国の妻へ（ネパールツアー報告集より）

二年前の夏、篠山からネパールツアーを組んだ。今回同様よい仲間に恵まれた。私としての最初のネパール訪問は「これからの探る旅」だったが、帰国後、そのメンバーを中心に学校建設の勉強会や現地との交渉を続けた。その話をわが家でもするうちに「お父さんとビスタさんに力があるうちにそれぐらいのことしたげなあかんわな」という妻の「檄」が大きな勇気になった。そして教会の礼拝では「お父さんの計画がうまくいきますように」といつも祈ってくれていたと聞く。

そして昨年一月九日、最終的な詰めのためショーパーナさん宅から現地へ電話する頃には、妻の病状は悪い坂道を転げ落ちる状況にあった。妻の元気な頃、仲間と一緒に学校を建て、二人で孫を連れて行く夢を共有していた。夢が現実になろうとする今、二十五人のPHD研修生の面倒を見たアジアの母は現世にはいない。しかし彼女は私や、ビスタや、ビドルやショーパーナの中に生きている。仕事を見守り、力を授けてくれるもう一人として間違いなく存在している。

生前中、いつも言っていた言葉に「お父さんはいつも重たいものを持ち、動き出したら、お父さんはいない、損な性分だ」と。今回も「種時き人」になれるだろうが、必ずや篠山の孫世代に引き継がれることを信じている。

岩村博士の提唱は「自分の持てる十%の奉仕」だが、所帯を息子夫婦に譲り、還暦を越え、第二の人生をスタートする二十一世紀の新春に、天に一番近い国、ネパールから、「せめて自分の持てる三十%の奉仕」を天国の妻に誓いたい。

募金のお願い

篠山ナマステ会は、今では故人となられた渡辺省悟氏の呼びかけにより、二十年に及ぶ「PHD」の運動と連帯し、「たんば農文塾」の活動を原点として、二〇〇〇(平成十二)年秋に設立されました。その主たる活動の目的は、ネパール国ガハテ村に小学校を建設し、五年間その運営を支援すること、また篠山市の児童生徒との交流を育んでいくことにあります。

篠山市民を中心とする多くの皆さまの浄財が寄せられ、お蔭様で二〇〇一(平成十三)年夏、セティディビ小学校の開校にこぎつけることができました。ネパールの不安定な国情から延期されていた竣工式に、昨年の夏参加することができて、児童の輝く瞳と村人の教育への熱い思いにふれることができました。また、学校関係者の方々より、篠山市民をはじめ支援を頂いている皆さまへの多くの感謝の言葉をいただいております。

セティディビ小学校は現在設立二年目を迎え、学校運営も軌道に乗っております。篠山ナマステ会として、セティディビ小学校の公立学校への移管を展望し、残る三年間の運営支援(主として教員の給料、必要備品購入)と、篠山市内児童生徒とネパールの子どもたちとの交流の充実等に力を入れていきたいと考えています。

現在までセティディビ小学校建設・運営のために寄せられた募金は、総額三百六十八万円に達し、そのうち三百四十五万円を建設・運営資金等として送金をしておりますが、残る三年間の運営資金等として二百五十五万円が必要となります。

皆さまには今まで多大のご支援をいただいておりますが、残る三年間の学校運営支援につきまして、重ねてご協力下さいますようお願い申し上げます。

篠山ナマステ会

お 礼

渡 辺 拓 道

百か日の法要を終えてなお、多くの方々より弔意をいただき、ありがたく思っています。特に故人が最も信頼し、心を許していた篠山ナマステ会の皆さまには感謝の気持ちで一杯です。

思い返せば増岡夫妻が来宅されたとき、会話の雰囲気から何か新しいことを始めようとしているのがわかりました。当時母親も病氣療養中であり、「おとなしく家に居たって一な一」というのが正直な気持ちでした。私自身のナマステ会との最初の出会いです。

その前に故人が関心を持っていたのは還暦後の生き方で、その情報交換やネットワークづくりに力を入れていました。その活動の中で、ポスト60のテーマとして自身が選んだのがネパールだったのでしょう。

私から見た故人の一貫したライフワークは、恩師西垣先生の「山よ、緑よ、ふるさとよ」に表される地域づくりであり、その延長あるいは手法として、国際交流に取り組んでいたようです。

ビスタ氏が国会議員の道ではなく草の根的な地域づくりを選ばれたことも「ナマステ」の活動に傾倒して行った理由の一つだと思います。

故人の部屋には宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」が掛かっていました。「ホメラレモセズ クニモサレズ サウイフモノニ ワタシハナリタイ」晩年穏やかに思えた故人の姿をこの言葉に重ねてみて、改めてナマステ会の皆さまの友情、ご好意にお礼を申し上げたいと思います。

沈滞した社会です。ガハテの勢いと勇気を篠山のまちづくりに、その橋渡しとなる篠山ナマステ会の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

志半ばで急逝された渡辺省悟氏のご遺族拓道氏から、故人の遺志実現のために役立てて下さいと、金百万円ご寄贈を頂きました。篠山ナマステ会では、「渡辺基金(仮称)」として、別途セティディビ小学校やガハテ村支援のために役立たせていただきます。

編集後記

「人間の値打ちは棺を覆うて定まる」と言われるけれど、追悼特集の編集を任されて、改めて省悟さんの生きざまを振り返って見ると、まさに求道者の姿であった。しかも、肩肘を張らず、持ち前の頑固さを柔和な笑顔に包んで、言行一致、いつも先頭を切って走り続けていた。

原稿締切日を過ぎても次々と寄せられる追悼文にうれしい悲鳴を上げながら、彼はまだ生きている。みんなと一緒にネパールと篠山の子どもたちを見つめて歩いている。確かな感覚でそう思う。悲しみを乗り越えて、心の中に省悟さんの思いを抱きしめて頑張りた

(和)